

## 南部地域整備基本計画の策定に先立つ説明会：議事録（要旨）⑥

日 時：平成20年8月18日（月）午後7時～午後8時50分

会 場：くにたち南市民プラザ多目的ホール

参加者数：14名

主な意見

### 【基本計画について】

- ・昨年度の業務委託の成果は公表しているか？

市：現在は公表していないが今後は資料としてまとめたものや、取り組み等の状況も公表していく考えである。

- ・公表はいつ頃か？公表する資料は、庁内検討会で整理したものか、整理する前の成果そのものなのか？

市：検討資料として整理した上で公表していきたいと考えている。

- ・業務委託の成果は、専門のコンサルタントがどう評価しているのか興味があるので、市民にとっても早い時期に把握ができていれば、意見が出やすいと思う。増え続ける環境阻害要素をいかに防いでいくかを身近に考えていかなければならないと思う。
- ・25年経って、その成果に対しての評価が必要と思う。評価を行い反省すべき点は反省し、その反省を次回に活かさなければならぬと思う。民間の土地区画整理事業を評価するのは少し問題があるかもしれないが、事業の評価や環境への影響を検証した上で反省を踏まえて次の計画へ進めないと同じ失敗をしようと思うので、評価についても公表してほしい。
- ・なぜ25年放っておいたのか？基本構想、基本計画や都市計画マスタープランを策定した時に直ぐにリンクして見直さなければならなかったはずだが、なぜそうしなかったのか？現在、都市計画マスタープランの評価をしているが、あるべき将来像にリンクして南部の基本計画も変更するべきであり、緑地、農地の保全や土地区画整理事業は整合しているのか？

市：現在の基本計画は南部地域における整備・開発及び保全の方針としての位置付けであり、平成15年に策定した都市計画マスタープランとも整合している。都市計画課で都市計画マスタープランの見直し作業と連動する形で取り組んでいる。

- ・南部地域整備基本計画策定の説明会は、中、西、東地区では行われませんが、南部地域に無関心ではないので、北部地域でも実施する配慮があってもいいのではないかとと思う。
- ・見直し計画策定の課程で、庁内検討会、幹事会の委員の部署は関係なく、全員を国立市在住の職員にしてほしい。痛みを知らない人に行ってほしくない。
- ・市民検討会の構成はどう考えているのか？

市：南部地域の市民を中心に考えている。どのように声をかけるかはまだ検討の段階だが、自治会に協力いただくことで考えている。

- ・計画を描くのは良いが実行するとなると予算的な措置が必要となるが、予算措置は別

の話か？

市：予算措置の話は別である。

- ・ 25年の間何をやっていたのか？住環境が悪化するので開発はやめてほしい。土地区画整理は開発というイメージで、土地区画整理法は悪法と思っている。都市計画道路の計画ありきで、見直すという姿勢がないのはなぜか？日野バイパスと都市計画道路3・3・15号線が完成し、交通量が増え騒音や排気ガスによる環境が悪化した。もう道路は造らないでほしい。もし造るのであれば狭い道路にしてほしい。通過交通がこれ以上増えるのは我慢できない。
- ・ 寺之下地区を見ても農地がなくなり、宅地としてではなく目的外に使用している。ガス、水道、電気が整備されているのに、住宅ではなく違うものができている。深夜にアイドリングで違法駐車している車が多い。土地区画整理事業ということだが、ただ地権者の意見だけに振り回されることのないようにしてほしい。これ以上の開発はしてほしくない。当時にはどんなものができるか分からない中で、準工業地域に指定し、今頃になって住工混合の状況の改善とうたっても、一度壊した中でもう戻らない。

市：土地区画整理事業が完了した後の土地利用は、地権者の判断になる。生産緑地に指定されている農用地は、土地区画整理事業が完了しても生産緑地として残る。土地利用は、用途地域等や地区計画により建築物を誘導している。

- ・ 反省の面でもう一度まちづくりの原点に戻ってまちづくりを行ってほしい。市の職員の7割が市民ではないので痛みは直接的ではない。地区住民が環境の被害を受け、どれほど我慢しているか知ってほしい。児童が危険な場所を通って登校している現実がある。清化園が40年経ってせつかく解放されたのに、どうして迷惑施設ができるのか？昭和59年の基本計画に、この南部地域は残された最後の地域で、南武線以北に勝るとも劣らないまちづくりをしていこうとうたっているが、南部地域は最後の土地であるが、劣るにも足りない状況で現実とは全然違う。
- ・ 他自治体でのまちづくりの成功例や学識経験者に聞くと、実際に成功した現場を見て考えているということである。国立市はお金がないからできないというが、お金がないからできるということもある。国や都からお金をもらって実施するような計画を立てる能力が問われている。市の担当者も、同様に成功した現地へ出向くなど勉強してもらわないと困る。事業を進めるための仕組みづくりをしてほしい。実践的計画は公的機関でしか実施できない。
- ・ 実践的なまちづくり、子どもへ託すまちづくりを願っている。昭和30年代にヤクルトが来てから、この50年間に物流しか企業の参入がなく、それが実体だった。市は基本の部分のネジを締め直してほしい。地区計画を見直してほしい。地区計画で建築不可としていないから迷惑な建物が建ってしまう。
- ・ 谷保は関東大震災の時にはほとんど被害が少なかったことがあり、一橋大学が移転してきたのも地盤がしっかりしていたということがいえると思う。南養寺と谷保天満宮等の歴史的な文化遺産と多摩川がある。物流会社が来ても多摩川からの風が大気汚染を緩和してくれていると思う。

また、ハケの緑が残っている。しかし、国立市が失敗したのはこの地域の開発を怠ったことであり、優良企業がないことである。昭和59年の時点でまちづくりをきちんと行っていれば、今頃はもっとよい環境になっていたと思う。市当局だけでなく市民も含めて反省しなければいけないと思う。これからスプロール化がさらに進んでしまったら、もっと大変になってしまうので、次のまちづくりとしては、残されたところをどうするかということだと思う。実際に住んでみると痛みがある。まちづくりの期待があったが、裏切られてきた。

- ・行政が道路整備や土地区画整理事業にお金を使うことには限界があると思う。土地区画整理後の土地活用は地主と企業という民民の話で入れないため、行政は、大きなまちづくりの計画や地区計画をもって、迷惑施設が稼働できないように誘導するようなソフト面の枠組みでまちづくりを進めることが必要と思う。狭あい道路の整備などは行政が行い、市民と役割分担するなど大きな枠でまちづくりを誘導してほしいと思う。

#### 【道路整備について】

- ・甲州街道は国立市を東西に貫く道路であるが、歩道が狭く、さらに信号や電柱も障害となり、自転車ですれ違えない状況である。これは生活基盤として劣悪であり、安全に通行できないので、都の管理であろうが改善してほしい。車道を削ってでも歩道を拡げてほしい。

市：日野バイパス等が整備された結果、交通量も減ってきているため改善を都に対して要望している。

- ・甲州街道の歩道は、国立市部分だけが狭く、4車線に拡げるときに歩道も拡げておかなければいけなかったと思う。自転車のすれ違いができないことから、車道に出ることもあるので、事故を誘発しないように対応してほしい。夜間や雨天時にはさらに危険である。

#### 【土地区画整理事業について】

- ・土地区画整理事業を行ってもよくなったという実感が無い。先進市の例も参考にして水路を残して活かしたまちづくりができるのかということを徹底的に追求して、予算化の関係もしっかり考えてほしい。千葉県で土地区画整理事業を行ったが、土地の価値が上がらずむしろ下がったということがあり、もう土地区画整理事業は止めようしているということがある。国立では遅れたことを行っているという感じを受ける。昔との価値観の変化を受け止めて将来の価値観を模索し、予算化し整備を行い、地域の皆さんが喜ばれることを行ってほしい。

#### 【保全について】

- ・南部地域は自然の残る地域で国立市の財産であり、どう保全しながら活用するのかなどの長期の展望や計画は、庁内で練って市民合意で進めていかなければいけないと思う。区画整理に限定せず、安易に委託や審議会へ丸投げするのではなく、きっちり庁

内で検討し市民、議会でしっかり考えるということをしてほしい。そうしないと自然が消えてしまう。自然が消えてしまったら戻らないので、共通の基本的な考え方を整理しなければいけないと思う。

- 南部地域の中でも場所によってはだいぶ違うので一概にはいえないが、多摩川沿いの地区を準工業地域にしたことで、多摩川の水辺空間の活用を間違ったと思う。矢川の周りの水辺の住宅はいい環境だと思う。水辺空間活用の失敗を元に戻すことは難しいが、自然の資本を元に戻すためには、何を行えばよいのか検討が必要だと思う。

以上